

月報を作る際に勤務日が正しいか確認する

1 ウィークディの祝祭日は要注意

月報を作るときに、その月の勤務日が正しく記録されているか確かめる機能が追加されました。

2020年の東京オリンピックが翌年に延期となりましたが、7月には23日に海の日、24日にスポーツの日といった祝日が並び、例年になくお休みの日が続きました。

次の図は、ある学校の7月のPunch_Outの出退勤データですが、水色のところは教職員の出退勤があり勤務日となった日、灰色のところは出退勤の記録がなくお休みであった日を表しています。

左がある中学校の7月の月報を作る際に勤務日を確認したもの。本来は23日と24日は祝日で、勤務日ではないので右のようにする必要があります。

よくみると、23日の海の日と24日のスポーツの日は、祝祭日で勤務日ではなかったはずなのに、学校に出てきて仕事や部活の指導ななされた先生がいて、その先生が出退勤を打刻し、祝祭日が誤って勤務日として記録されていることが分かります。

このまま月報を出力すると、この23日と24日に学校をお休みして勤務をしなかった先生には影響がないのですが、このお休みの日に学校に出てきて仕事をされた先生にとっては、本来は休日ですので、出勤から退勤までの時間全てが「超過となる在校等時間」として積算されなければならないのに、誤って勤務日のままにしていると、偽の勤務時間の両端からはみ出た部分しか超過となる在校等時間に積算しないという現象が起きます。

こうした不具合を解消するために、月報を作るときに、その月の勤務日が本当に正しいのかを確認する処理を、新たに付け足して、月報の精度を上げるように改善を行いました。

「月の中の勤務日の確認」というボタンが新たに付けられました！

2 間違っていたら、カレンダーの日をクリックして変更します

フォームの3番目の「月の中の勤務日の確認」というボタンを押すと、カレンダーが表示され、勤務日として登録された日を水色で表示します。

その月の祝祭日などが正しく休日になっているかなどを意識しながら確認していただき、もし、勤務日でない日が水色になっていたら、カレンダー上のその日をクリックして、水色から灰色に変えると、勤務日から休日に変えることができます。

この操作によって、その日に、部活動や用事で学校に出てきてお仕事をされた方の記録については、変更されることはありません。しかし、超過となる在校等時間の算出については、勤務日ではない日の計算式に従って、「退勤した時間－出勤した時間＝超過となる在校等時間」として、月報で計算されるようになります。

勤務時間が割り振られていた日の確認

2020 年 7 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

勤務日を確認しました

本来は23日は、海の日で祝祭日なので、勤務がない日です。

しかし、部活動などで学校に出てきた先生が打刻すると、ウィークデーは勤務日と見なしてしまい水色表示となります。

23日を勤務がない日とするためには、カレンダー上の23日をクリックして、勤務日ではなく普通のお休みの日とします。

休日を勤務日にすることも、同じようにクリックで行うことができます。

3 Punch_Outの仕組みについて

Punch_Outは土日かどうかは、カレンダーを計算して判定していましたが、月曜日から金曜日までにある祝祭日については、プログラムとしては判断ができないため、Punch_Outで記録したデータをExcelに渡した時に、「holidays」というタグに、祝祭日の情報を入れて、月報で表示されるような仕組みをとっていました。

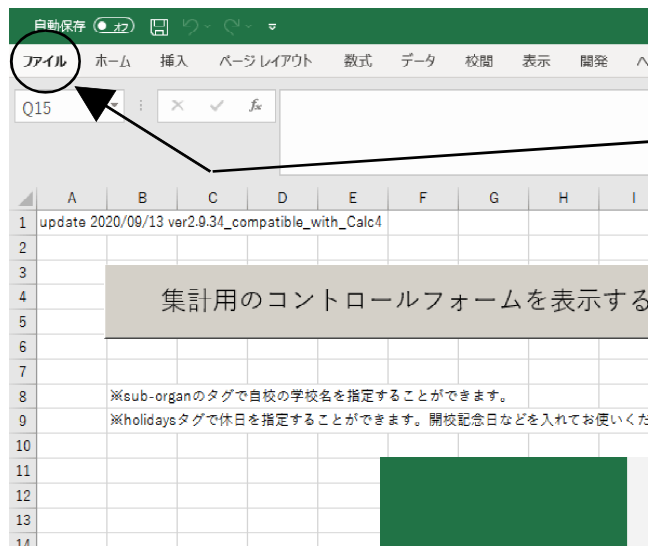
超過となる在校等時間を算出するためには、勤務日であれば、「8:00～16:30 休憩45分」のように、その日の勤務時間の最初と最後の時間に加えて、休憩時間についても知る必要があります。

しかし、毎日、こうした時間を入力するのも面倒ですので、出退勤があったときに自動的に、その日の勤務時間も記録するようにプログラムを組んだため、休日に部活動の指導などがある中学校では、この仕組みではウィークデイにある祝祭日が誤って勤務日と認識されてしまうことがあることがわかりました。

市町村によっては、月報をそのまま教育委員会に提出しているところもあるようにお聞きしておりましたので、月報を作る際に、もう一度その月の勤務日を丁寧に確認していただくような機能を付加し、特にウィークデイにある休日について、正しく取扱いができるように、この度、改修を行った次第です。

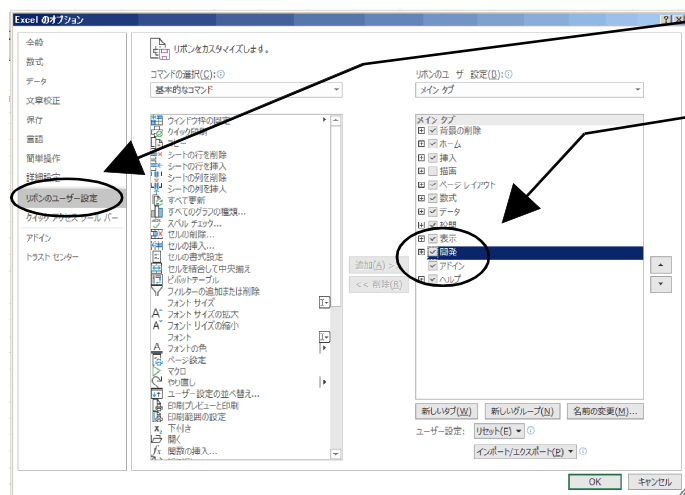
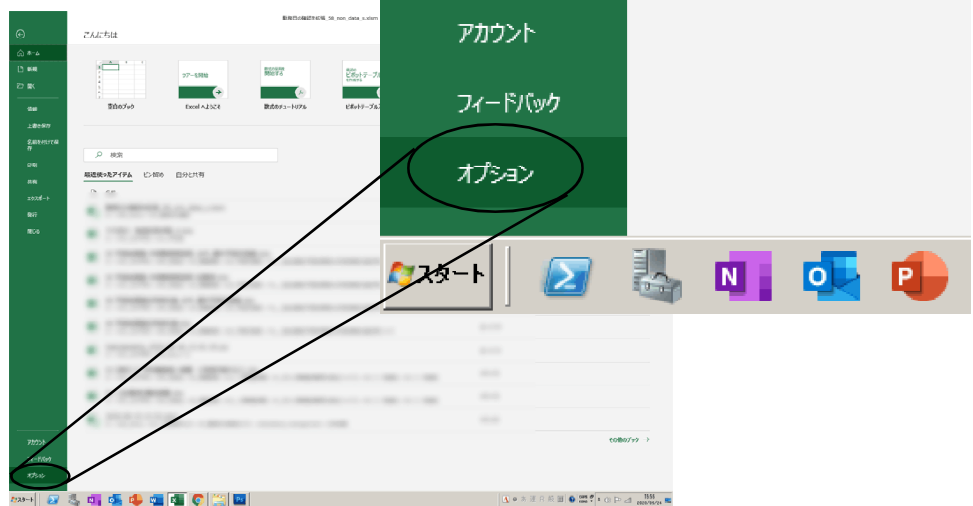
4 Excelのマクロがエラーになるときは

エクセルのマクロでは、使われている関数が参照できないときにエラーとなることが起こります。参照設定を自動で追加するには、次の方法によります。

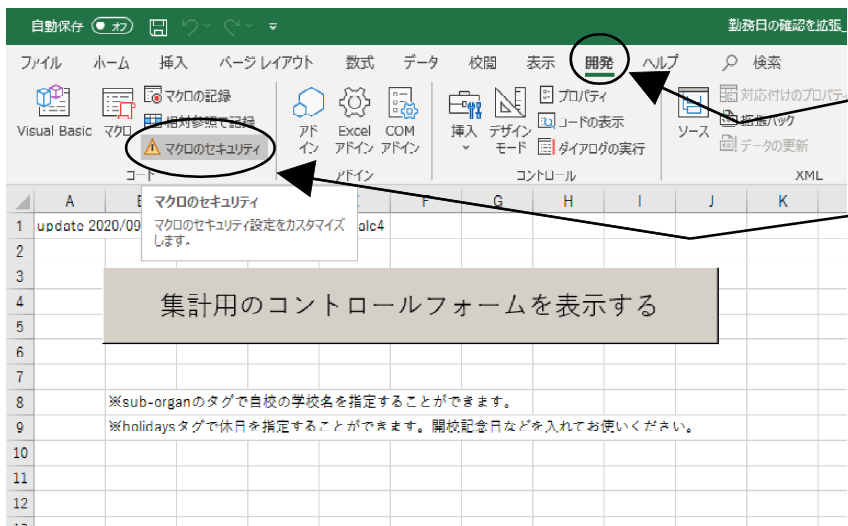


開発というタブが表示されていない時は次の方法で、「開発」タブを表示させます。

「ファイル」より開いたときに、左の一番下に表示される「オプション」を選択します。



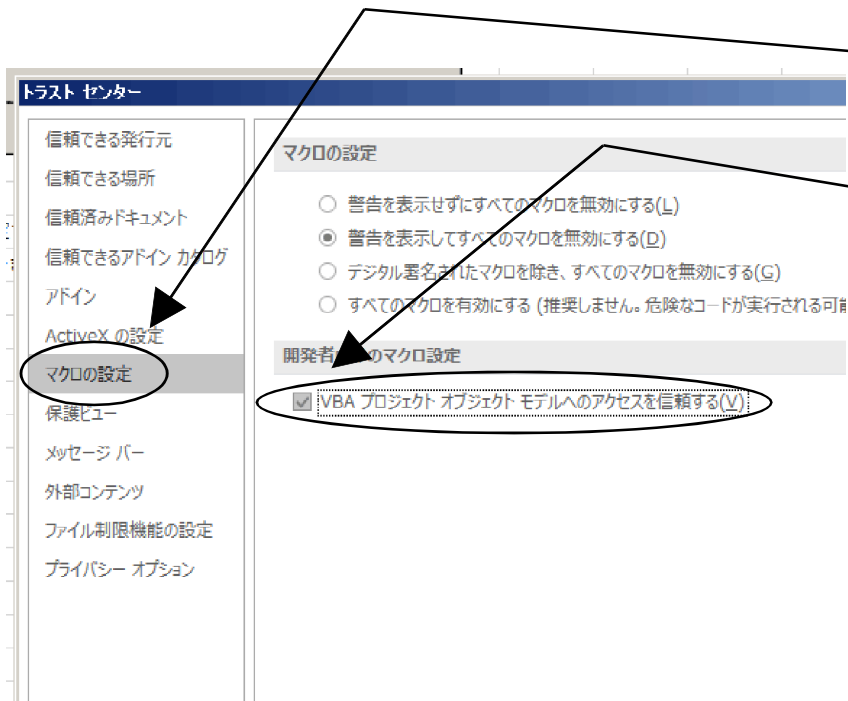
画面左中央の「リボンのユーザー設定」を押して、右側に開いたウィンドウから「開発」を選択しチェック！



表示された「開発」のタブを押す。

画面左上に、「マクロのセキュリティコード」が表示されるので、ここをクリック。

集計用のコントロールフォームを表示する



「左側のマクロの設定」から、

右ウインドウの「VBA プロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する」にチェック

これで、マクロのセキュリティの変更が終わりましたので、これまでのVBAでは使わなかったVBAのマクロが出てきたときに、自動的に参照設定が追加されるようになります。